

# 「葦」34号発刊によせて

奈良県立医科大学附属病院

看護部長 森 本 智磨子

今年も1年間の看護部の成果を「葦」34号にまとめ発刊出来ました事を心より嬉しく思っています。

平成14年度看護部の目標は、医療事故および感染防止に努めると共に療養環境を整え、細やかな看護を提供することにより「患者様の安全・安楽・安心を確保し信頼を得る」「組織の一員としての役割を自覚し、病院経営に参画する」と言うことで、1年間努力して参りました。中でも特に感染管理委員会がより強力的に組織化され、清掃委員と共に活動が活発になり毎月の状況報告と共に定期的なラウンドを開始する事により職員の意識も高くなって来ました。

また、医療界全体に於いては大変厳しい年であり、今回の診療報酬の改定は「入院基本料」が初めてマイナス改定となった事だけではなく、各医療機関での医療・看護の質向上への取り組みが問われる内容となりました。

在院日数はさらに短縮され、医療安全管理体制の未整備、褥瘡対策の未実施は入院基本料から減算されることになりました。

一方、高い看護職員の配置を評価したものとしては「夜間勤務等看護加算」「小児入院医療管理料1・2」が新設され、今回の改定では、高い看護人員配置と看護の質の向上への取り組みが評価され、看護職員の数の確保だけでなく看護婦の名称変更（看護婦→看護師）と共に看護の質が問われるようになりました。

当院に於いても、医療安全管理体制の強化と褥瘡対策委員会が発足しました。また4年生大学へ向けての準備も着々と進んでいます。このように、めまぐるしく変化していく中看護部に於いて今後質の向上に向け一人一人が、今一度基本に立ち戻り「個々の患者にとっての安全・安楽・安心」とはについて考え、患者様が安心して医療を受けられるよう努力を重ねていかなければならないと思っています。